

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月22日午前 1/2

会場	W109 (総合研究棟)	S11 (農学部)	S12 (農学部)	N11 (農学部)	N13 (農学部)	S21 (農学部)	S22 (農学部)
開始時刻	植物生態	風致・観光 1	教育 2	造林 2	立地 1	防災・水文 1	動物・昆虫 1
9:00	H-1 タイ熱帯季節林に共存するタケ類2種の形態的な山火事耐性形質：齋藤智之（森林総合研究所）ら	B-1 Integrated Assessment of Protected Areas in Myanmar after COVID-19 and 3-year political conflict: NyeinChan (Kyoto University of Advanced Science) ら	C-6 地域固有の生物に着目した教育から森林環境教育の展開への課題：杉浦克明（日本大学）	E-4 富山県におけるコウヨウゼン植栽木の初期成長：田和佑脩（富山県農林水産総合技術センター）ら	I-1 スギ人工林における皆伐初期の硝化・脱窒機能遺伝子からみた窒素動態：藤村光希（京都大学）ら	J-1 流域内の流木生産量と流路内滞留特性を考慮した流木動態評価：中島啓太（名古屋大学大学院）ら	L-1 白山における自動撮影カメラによるニホンジカの侵入状況調査 2024年：近藤崇（石川県白山自然保護センター）ら
9:15	H-2 表層崩壊後のレガシー活用緑化における植生回復の決定要因の解明：重野真修（北海道大学）ら	B-2 COVID-19流行下における自然環境への訪問頻度の変化：SLEPT Study：森田えみ（(国研) 森林研究・整備機構森林総合研究所）ら	C-7 「みえ森林ワークブック」を活用した小学校6年生における森林環境育の実践：服部真一（三重県松阪市立德和小学校）ら	E-5 スギ及びコウヨウゼン植栽地におけるウサギ食害：赤井広野（鳥取県）	I-2 気象条件の異なるヒノキ林における窒素と水資源の相対的重要性：稲垣善之（森林総合研究所）ら	J-2 流木の流下、堆積過程の数値シミュレーション：鈴木拓郎（(国研) 森林研究・整備機構森林総合研究所）ら	L-2 斜面崩壊後の木柵と防塵柵の設置が哺乳類利用頻度へ与える影響：高橋奈々（北海道大学）ら
9:30	H-3 鳥取県におけるナラ枯れ跡地の植生状況：三浦功次（鳥取県林業試験場）	B-3 富士山吉田ルート安全登山対策の評価：関係者の聞き取り調査から：福島雅之（北海道大学）ら	C-8 多摩森林科学園におけるきのこ園鑑企画展の試み：長谷川絵理（多摩森林科学園）ら	E-6 スギ第二世代精英樹候補木および第一世代精英樹のコンテナ苗の成長：藤本浩平（高知県立森林技術センター）	I-3 Assessing Nitrate Dynamics and Environmental Drivers in Mountain Streams of Kyushu Main Island: MaungNay Lin (Kyoto University) ら	J-3 室内実験による植生密度の違いを考慮した斜面崩壊と土砂流動性評価：五味高志（名古屋大学）ら	L-3 ニホンジカ不嗜好性植物の成り分け：古澤優佳（東北農林専門職大学）
9:45	討論・調整	討論・調整	C-9 佐渡島におけるサイエンスカフェの取り組み：崎尾尚（新潟大学）	討論・調整	I-4 花崗岩からなる森林流域における約25年間の渓流水質の変化：岸本光樹（東京大学）ら	討論・調整	討論・調整
10:00	H-4 北アルプス立山における温暖化と森林帯の上昇：石田仁（富山県農林水産総合技術センター 森林研究所）ら	B-4 国立公園における協力金の支払いを促進する要因について：愛甲哲也（北海道大学）ら	C-10 森林内音楽演奏の聴取方法による認識の差異：現地とオンラインの比較検討：中村和彦（東京大学）ら	E-7 スギ樹幹解析による系統別樹高成長と環境要因に基づく樹高成長モデルの対比：福井遼（佐賀県林業試験場）ら	I-5 落葉広葉樹二次林における樹幹流と林内雨の水質：山下多聞（島根大学）ら	J-4 2024年能登半島地震による斜面災害の特徴と9月豪雨による土砂流出：柳井清治（石川県立大学）ら	L-4 奈良県におけるブナ科樹種の豊凶とツキノワグマの秋季の出没（第2報）：青山祐輔（奈良県）ら
10:15	H-5 Effect of El Niño drought on seedling dynamics in a seasonally dry tropical forest in Northern Thailand: NUTIPRAPUNPRAPAWADEE (The University of Tokyo) ら	B-5 北アルプス・太郎山～北ノ岳間の地形と人為的攪乱について：大宮徹（NPO法人 富山県自然保護協会）ら	討論・調整	E-8 過去の土地利用がスギ人工林の樹高成長に与える影響：福井翔宇（株式会社バスコ）	討論・調整	J-5 能登半島北部における令和6年能登半島地震による亀裂発生箇所に関する研究：滝澤みちる（株式会社バスコ）ら	L-5 齧歯類による分散型貯食は森林火災後の植生回復に貢献するか？：大河龍之介（京都大学）ら
10:30	H-6 亜高山帯林における地表上とマウンド・倒木上との実生バンク成立状況の違い：杉田久志（元森林総合研究所）ら	B-6 世界自然遺産小笠原諸島における複数の観光ガイド制度の変遷とその関係：武正憲（東洋大学）ら	C-11 中学校の総合的な学習の時間における地域資源を活かした自然体験活動：山田亮（北海道教育大学岩見沢校）ら	E-9 農地跡地での植栽木の成長と土壌の関係：園田葉央（鳥取県林業試験場）	I-6 落葉広葉樹二次林におけるリターフォールによる重金属類の還元：入江業紗（島根大学）ら	J-6 能登半島地震による北部地域の山地災害を対象とした広域判読調査報告：鈴木廉（株式会社バスコ）ら	L-6 ツキノワグマによるガンコウランの垂直種子散布：酸素安定同位体による推定：高橋一秋（長野大学）ら
10:45	討論・調整	討論・調整	C-12 中学校の総合学習におけるシカ捕獲の取扱い：柳澤賢一（長野県林業総合センター）ら	討論・調整	I-7 三瓶演習林の16年生スギ人工林地上部における金属元素蓄積：穴澤颯馬（島根大学）ら	討論・調整	討論・調整
11:00	H-7 ミズナラが豊作に至る途は1つではない：19年間の種子トラップデータの解析：正木隆（国立研究開発法人森林研究・整備機構）	B-7 緑地景観の主観的認識と客観的指標との関連性：梅澤弘一（早稲田大学）ら	C-13 学生を対象とした砂防えん堤モデル実験の授業実践：浅井能登（上越教育大学）ら	E-10 低コスト再造林プロジェクト紹介：田中賢治（国土防災技術株式会社）	I-8 暖温帯林小流域におけるCO ₂ 交換量に対する河川経由炭素流出量の割合：高木正博（宮崎大学）ら	J-7 気候変動が斜面崩壊発生危険度降雨に及ぼす影響：経隆悠（(国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	L-7 沖縄島におけるソテツシロカイガラムシの被害実態とその薬剤防除：辻本信志（一般財団法人沖縄美ら島財団）ら
11:15	H-8 秋田県内におけるブナの整熟生産の地域間差：木村恵（秋田県立大学）ら	B-8 Socioeconomic Inequalities in Urban Forest Accessibility: A Comparative Study in Metropolitan Cities in Japan: 方清平 (Kobe University)	C-14 学食からはじめる脱プラスチック竹箸プロジェクト：禮浦正子（京都大学）ら	E-11 グイマツ雑種F ₁ 低密度植栽実証林の植栽後20年間の生残と成長：中川昌彦（北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場）ら	I-9 Linking fine root traits to belowground carbon dynamics in middle-aged plantations of four tree species: 林承源 (Kangwon National University) ら	J-8 Response of overland flow, soil and litter erosion to thinning in a Japanese cypress plantation: フアラナクモイン (東京大学) ら	L-8 チョウセンゴヨウにおける樹幹注入農薬の残留とリスク評価：金俊憲（国立山林科学院）
11:30	H-9 カヤの平ブナ成熟林における葉群の水平・垂直分布の5年間の変化：植田時（筑波大学）ら	B-9 Analysis of People's Perceptions of Urban Green Spaces and Their Environmental and Socioeconomic Factors: 胡宇軒 (神戸大学)	C-15 林業×ボドゲ×甲子園：遊びと競争で深める新たな林業教育プログラムの実践：狩野和也（飛騨五木株式会社）	E-12 デゾレートAZ粒剤のドローン散布による除草効果：山田勝也（群馬県林業試験場）ら	I-10 Can two abandoned Phyllostachys stands be carbon source?: 韓楠虎 (九州大学) ら	J-9 山地流域における豪雨時の流出応答を長期観測データから評価する：浅野友子（東京大学）ら	L-9 低コスト樹幹注入法による小径木への樹幹注入の施工結果：小倉晃（石川県農林総合研究センター 林業試験場）ら
11:45	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整
12:00	ポスター発表の質疑応答（対面会場） 〔高校生ポスター：12:00-14:00〕 〔一般ポスター：13:00-14:00〕						
12:15							
12:30							
12:45							

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月22日午前 2/2

会場	N21 (農学部)	N23 (農学部)	S31 (農学部)	S32 (農学部)	N31 (農学部)	大講堂 (農学部)	小講堂 (学術交流会館)
開始時刻	生理	遺伝・育種 1	経営 3	微生物 1		林政 3	
9:00	G-1 スキャナー法と深層学習を用いた細根フェノロジー解析システム：成果と課題：森健介（兵庫県立大学）ら	F-1 スギミニチュア採種園におけるクローン毎の着花及び種子の特性：中島剛（青森県産業技術センター・林業研究所）ら	D-22 UAVと航空機レーザ計測による樹種判別～特微量抽出改善と外部検証～：星川健史（静岡県立農林環境専門職大学）ら	M-1 ポプラ-ウラムラサキ間におけるクロスキングダムsRNAの探索：岡部信（東京大学大学院）ら		A-23 市町村森林ビジョンの策定プロセスと施策内容に関する実態分析：吉川大輔（東京大学大学院）ら	
9:15	G-2 山岳域において樹木の葉と根の非構造性炭水化物物の季節変化は連動するの？：橋本裕生（信州大学）ら	F-2 スギ採種園におけるカメムシ類の季節変動と加害が発芽率に及ぼす影響：中川湧太（兵庫県立農林水産技術総合センター）ら	D-23 Tree component classification using UAV LiDAR-derived point cloud and Attention-PointNet++ deep learning：胡楠（東京大学）ら	M-2 ポプラにおける外生菌根形成を制御するmicroRNA319aの分子機構の解明：練春蘭（東京大学）ら		A-24 北海道民有林における森林資源管理制度の実情と課題：岩田聡（北海道大学）ら	
9:30	G-3 ミズナラ・コナラ苗の木部形成と通水の季節変化：福田健二（東京大学）ら	F-3 小型徳と深型セルトレーを活用したサガンスギの挿し木育苗技術の開発：柴田晴矢（佐賀県林業試験場）ら	D-24 AIとドローンレーザ計測による単木樹種分類及び林相区分図の作成：鄧送求（信州大学）ら	M-3 Characterization of fungal-specific transcription factors in <i>Cenococcum geophilum</i> regulating ectomycorrhizal formation：唐雨滢（東京大学）ら		A-25 森林開発に関わる我が国諸制度の運用実態：木村憲一郎（富士大学）	
9:45	G-4 常緑針葉樹4種における冬季の光化学系タンパク質の変動と光化学系の応答：成田あゆ（北海道立総合研究機構林業試験場）ら	F-4 葉面吸水と高温順化による難発根性スギ挿し木品種の発根促進：江島淳（佐賀県林業試験場）	D-25 UAV画像と機械学習を組み合わせた樹冠抽出及び樹種分類：若月大輝（東京理科大学）ら	討論・調整		A-26 中国西部都市森林の動的モニタリング：32年間貴陽市における土地被覆変化：BANHOUHENG（神戸大学）	
10:00	討論・調整	F-5 低温貯蔵したヒノキ実生コンテナ苗の植栽後活着率と初期成長：大平峰子（森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター）ら	討論・調整	M-4 菌根から滲出する酵素の活性はアカマツ実生の成長に影響するのか：吉岡隼人（東京農業大学大学院）ら		A-27 台湾と日本における保安林制度の違いとその要因：加藤葉月（筑波大学）ら	
10:15		討論・調整	D-26 深層学習によるUAV画像からの広葉樹の分類-有効な画像解像度の検証-：大原圭太郎（島根大学）ら	M-5 日本産マツ属の外生菌根菌埋土胞子群集の種構成と多様性パターン：阿部寛史（東京大学大学院）ら		討論・調整	
10:30	利用 1	F-6 スギ交配系統の若齢期における成長および材質と優良候補木の選抜：袴田哲司（静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター）ら	D-27 TreeQSMを用いた広葉樹測定精度の検証：山田誠太郎（千葉大学大学院）ら	M-6 屋久島の人工林と天然林のスギ根圏のアミノ酸化アーキアの群集構造：松田陽介（三重大学大学院）ら		A-28 大規模言語モデルを用いた森林環境議与税に関する県議会議事録解析：大森宏（東京大学）ら	
10:45	K-1 山地区分と林道損壊の関係：矢部浩（鳥取県林業試験場）	F-7 日本におけるテータマツ・スラッシュマツの造林可能性を探る：笹田勇麻（東京大学）ら	D-28 UAV-LiDARデータを用いた広葉樹林の林分材積推定：齋藤英樹（森林総合研究所）ら	討論・調整		A-29 経営規模および事業構成別にみた森林組合の収益性に関する検討：松本美香（高知大学）	
11:00	K-2 Automated Long-Term Productivity Analysis of Feller Bunchers in Whole-Tree Harvesting in British Columbia, Canada：LahrsenSteffen (Utsunomiya University) ら	F-8 日本国内のコウヨウザン林分を対象とした成長および材質に関する遺伝的評価：平尾知士（森林総合研究所林木育種センター）ら	D-29 3波長同時計測航空機LiDARデータを用いた広葉樹の樹種間特徴の比較：山口大樹（名古屋大学大学院）ら	M-7 The ecological patterns of the key arbuscular mycorrhizal fungi detected in the roots of <i>Cryptomeria japonica</i> ：DJOTANKevin (三重大学) ら		A-30 長野県佐久地域カラマツ人工林の主伐・再造林動向-伐採届による分析-：岸野奏（東京大学大学院）ら	
11:15	K-3 大分県の皆伐作業における欧州型CTLを導入した作業システムの生産性分析：有賀一広（宇都宮大学）ら	F-9 全国抵抗性・精英樹・野外集団クロマツ・アカマツの資源機動的核SSR評価：岩泉正和（森林総合研究所林木育種センター関西育種場）ら	討論・調整	M-8 土壌DNAを指標にした日本産黒トリュフ <i>Tuber himalayense</i> 定量方法の確立：山口宗義（国立研究開発法人 森林総合研究所）ら		A-31 林業関係者間の意識共有による持続可能な森林経営への影響に関する考察：石佳凡（早稲田大学）ら	
11:30	K-4 伐木前地帯作業がハーベスタ伐木作業に与える影響：渡辺一郎（地独）北海道立総合研究機構林業試験場）ら	F-10 キタゴヨウ最北限孤立集団の遺伝的動態：中西敦史（国立研究開発法人 森林研究・整備機構森林総合研究所）ら		M-9 針葉樹4樹種の根圏に生息する土壌生物群集構造：北上雄大（三重大学）ら		A-32 森林組合による主伐地集約の地域間比較～宮崎県南・県北地域の事例から～：新永智士（宮崎大学大学院）ら	
11:45	討論・調整	討論・調整		討論・調整		討論・調整	
12:00	ポスター発表の質疑応答（対面会場） 〔高校生ポスター：12:00-14:00〕 〔一般ポスター：13:00-14:00〕						
12:15							
12:30							
12:45							

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月22日午後 1/2

会場	W109 (総合研究棟)	S11 (農学部)	S12 (農学部)	N11 (農学部)	N13 (農学部)	S21 (農学部)	S22 (農学部)
開始時間							
13:00							
13:15							
13:30							
13:45							
	ポスター発表の質疑応答 (対面会場)						
14:00	S10 北海道の広葉樹	風致・観光 2	S8 森林教育の発展	造林 3	立地 2	防災・水文 2	動物・昆虫 2
14:15	S10-1 RSデータを用いた広葉樹資源量の把握：針葉樹人工林内の広葉樹を対象に：蝦名益仁（地方独立行政法人北海道立総合研究機構）ら	B-10 東京23区民の森林への関心・訪問に関する調査報告：小田龍聖（森林総合研究所）ら	S8-1 環境倫理学から見た森林、森林から見た環境倫理学：博物学的体験からの考察：太田和彦（南山大学）	E-13 森吉山麓高原自然再生事業におけるアノ植栽木の成長と植生の再生：沼宮内信之（秋田県林業研究研修センター）ら	I-11 近赤外分光分析による森林土壌の保水性の推定：関口寛人（森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	J-10 数値シミュレーションを用いた岩盤地下水が流出量に与える影響の検証：正岡直也（京都大学）ら	L-10 マツノサイエンチュウと在来近縁種の共存下における個体群動態：池田優月（明治大学）ら
14:30	S10-2 北方広葉樹林における天然更新促進施策法：石橋聰（森林総合研究所）ら	B-11 森林資源情報を活用した森林園地景観の評価/予測技術の開発：高山範理（国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	S8-2 森林活用で創る自然保育モデルと子どもの未来：藤井徳子（金沢学院大学）	E-14 岩手県の人工林皆伐跡地における大型草食動物の採食量推定：酒井敦（森林総合研究所東北支所）ら	I-12 地形の異なる丘陵地において火山灰が土層発達と土壌特性に及ぼす影響：渡壁卓磨（森林総合研究所）ら	J-11 白飯流域内入れ子伏小流域の流出特性—実測流量と浸透数値計算による解析—：森貞完太（東京農工大学）ら	L-11 マツノマダラカミキリ放飼により効率よくクロマツに病徴再現するための条件：小澤社太（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 東北支所）ら
14:45	S10-3 北海道における広葉樹の付加価値を高める木材特性に着目した育林の可能性：仲谷朗（北海道大学）ら	B-12 里山景観の保全と観光の両立- 佐渡金山ユネスコ世界文化遺産登録を事例に：大森結衣（京都大学）ら	S8-3 帯広の森における市民協働の森づくりと森林教育：日月伸（帯広の森・はくくーむ）	E-15 札幌市羊ヶ丘の樹木園に植栽されたカバノキ科樹木の雄花の着花数の年変動：倉本恵生（国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所）	I-13 森林土壌におけるメタンフラックスデータベース構築に向けた展望：森大貴（森林総合研究所九州支所）ら	J-12 山地森林流域の日米間比較による地質条件と水貯留特性評価：猪越翔大（名古屋大学）ら	L-12 野外網室において寄主丸太に誘引されたマツノマダラカミキリの日齢：江崎功二郎（石川県農林総合研究センター林業試験場）
15:00	S10-4 北海道産広葉樹の材質の一例：大崎久司（北海道立総合研究機構）ら	B-13 Kominka as a driver of Satoyama forest management: Potential citizen-participated research and actions：内山愉太（神戸大学）ら	S8-4 北海道大学研究林を利用したエコツアーの試み：中村誠宏（北海道大学）	E-16 Potential of Controlled Natural Tree Regeneration (GNRI) towards Urban Forest Management in Kampala city, Uganda. ネバラマヤムビン（Tokyo University of Agriculture）ら	I-14 高知県香美地域においてスギ成長に影響する立地要因：細川奈々枝（森林総合研究所四国支所）ら	討論・調整	討論・調整
15:15	S10-5 北海道における未利用広葉樹（シラカバ）の高付加価値利用の取り組み：鳥羽山聡（一般社団法人白樺プロジェクト）	討論・調整	S8-5 アウトドアツーリズムにおける地域資源を活かしたコンテンツ開発：武田丈太郎（北海道教育大学岩見沢校）	討論・調整	討論・調整	J-13 T-TDRセンサーを用いた土壌水分特性の野外計測：法利祐香（京都大学大学院）ら	L-13 温帯海岸林におけるタブノキに対するホシベニカミキリの影響とその生態：浅野涼太（白梅学園短期大学）
15:30	S10-6 広葉樹林を「一山いくら」ではなく「一本いくら」の価値で評価する：山下直子（森林総合研究所）	B-14 琉球諸島における御嶽聖域林の植生構造と保全管理の課題：陳碧霞（琉球大学）ら	S8-6 中学校技術科における森林教育の位置づけと現状：佐藤正直（北海道教育大学札幌校）	E-17 南九州の早生樹育林における台風被害事例：櫻井宮（宮崎大学）ら	J-14 加速度計による樹木振動データを用いた樹木への付着水分量推定の試み：南光一樹（国立研究開発法人森林研究・整備機構）ら	L-14 カシノナガキクイムシの根株から脱出数—甲府盆地の事例—：高柳達志（山梨県森林総合研究所）ら	
15:45	S10-7 道産広葉樹の需要開発と高付加価値化：内田敏博（北海道木材産業協同組合連合会）	B-15 現代山村における焼畑の変容 石川県白山市白峰地域を事例に：上田隆太郎（名古屋大学大学院）ら	S8-7 木育を構成する内容を踏まえた教科横断的な学習の提案：東原貴志（上越教育大学）	E-18 Impacts of Planting Density on Carbon Cycling in Early-stage <i>Larix kaempferi</i> Plantations：宋揆虹（Kangwon National University）ら	J-15 竹林の遮断蒸発はなぜ少ないのか？—付着水分量の推定—：篠原慶規（宮崎大学）ら	L-15 ナラ 枯れ被害後の林分における林冠構造の変化：奥山雅隆（東京農工大学）ら	
16:00	S10-8 広葉樹の販路拡大を目指した新たなサプライチェーン〜北海道日高での検証：酒井明香（北海道立総合研究機構林産試験場）ら	B-16 ガーデンツーリズム施策で活用される森林管理要素：田中伸彦（東海大学）		E-19 列状間伐から15年後のヒノキ人工林における生育状況：宮本和樹（国研） 森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	討論・調整	討論・調整	
16:15		B-17 国際協力における地域資源の活用 インドネシアのおが働活用事業を事例に：藍場将司（名古屋大学大学院）ら		E-20 広葉樹が混交した多雪地スギ人工林の20年間の動態：野口麻穂子（国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所東北支所）ら	J-16 降水安定同位体比の長期変動が示す気候変動のシグナル：勝山正則（京都府立大学大学院）	L-16 コナラの豊凶に6月の気温が影響する？ハイロチョッキリ羽化との関係：平山貴美子（京都府立大学大学院）ら	
16:30		討論・調整		討論・調整	J-17 劣化が進行しつつある熱帯乾燥常緑林でのCO ₂ 吸収：劣化以前とどう変わった？：清水貴範（(国研) 森林研究・整備機構）ら	L-17 水源林整備としての間伐が森林生態系に及ぼす効果の検証：谷脇徹（神奈川県自然環境保全センター）	
16:45				E-21 山形県金山町のスギ人工林における広葉樹推樹の分布と地形との関係：澤田佳美（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 東北支所）ら	J-18 日本全国の森林乾燥リスクマッピングにおける土層厚分布の重要性：岩崎健太（国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	L-18 カブトムシ幼虫による落葉広葉樹二次林間伐材チップの分解促進：福田滯李（東京農工大学大学院）ら	
17:00				E-22 九州の人工林伐採後の未植栽地に成立した二次林の林分構造の変化（予報）：野宮治人（森林総合研究所）ら	討論・調整	L-19 早期落葉が漸進性害虫に与える影響—もし早期落葉しなかったら—：大澤正嗣（山梨県森林総合研究所）ら	
17:15				E-23 播種起源の40年生ミズナラ林の成長過程：初期の競合植生制御の効果：吉田俊也（北海道大学）ら		討論・調整	
17:30				討論・調整			
17:45							

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月22日午後 2/2

会場	N21 (農学部)	N23 (農学部)	S31 (農学部)	S32 (農学部)	N31 (農学部)	大講堂 (農学部)	小講堂 (学術交流会館)
開始時間							
13:00							
13:15	ポスター発表の質疑応答						
13:30	対面会場						
13:45							
14:00	利用 2	遺伝・育種 2	経営 4	微生物 2		林政 4	学会企画 4
14:15	K-5 ヒノキ林において上方伐倒時のかかり木が残存立木間を通過する際の通過仕事:松本武(東京農工大学大学院)ら	F-11 日本の森林形成過程プロジェクトの紹介:津村義彦(筑波大学)ら	D-30 ドローンレーザーを用いた森林内空間情報取得技術:加藤顕(千葉大学)ら	M-10 岩手県奥州市のアカマツ1林分におけるマツ材線虫病の局地的自然終息:中村克典(国研)森林研究整備機構森林総合研究所		A-33 北海道における造林作業の工程および労働力の現状:唐澤友輔(北海道大学)ら	
14:30	K-6 持続可能な森林経営の視点から見た中間土場の配置最適化に関する研究:尤陽宇(東京大学)ら	F-12 気候変動がもたらす生態学的機会:ニューカレドニア産 <i>Oxera</i> 属の適応放散:坂野慧悟(京都大学)ら	D-31 深層学習を用いた森林の3次元構造と音響指数との関係:安藤隆良(千葉大学)ら	M-11 寒冷地域のマツ枯死木からマツノザイセンチュウを効率的に検出するには?:相川拓也(森林総合研究所)ら		A-34 北海道における自伐型林業の経営実態:江川智也(北海道大学大学院)ら	高校生ポスター表彰式
14:45	K-7 森林計画区における中小規模木質バイオマス発電所の最適配置に関する研究:玉雄恒(東京大学)ら	F-13 プナの遺伝的多様性、集団構造およびデモグラフィの歴史:頼承筠(名古屋大学)ら	D-32 ドローンレーザーを用いた森林構造と種多様性の関係:吉原知世(千葉大学)ら	M-12 コンテナ苗で発生したスギ赤枯病の病徴と発生地での防除事例:陶山大志(鳥根県中山間地域研究センター)ら		A-35 南九州における造林と生産の事業変化~宮崎県森林組合を例に~:滝沢裕子(鹿児島大学)ら	
15:00	K-8 天然乾燥における間伐材丸太の含水率変化に与える影響要素に関する検討:叶柯嵐(早稲田大学)ら	F-14 日本固有シャクナゲ亜属の系統関係と遺伝構造:玉木一郎(岐阜大学)ら	D-33 森林内間伐作業における時間生産性およびエネルギー生産性向上に向けた検討:菅田拓和(早稲田大学)ら	M-13 拡大造林期に発生していたスギ赤枯病の遺伝的多様性:安藤裕明(森林総合研究所九州支所)ら	学会企画 5	A-36 ウッドショックが残したものの:嶋瀬拓也(森林総合研究所)	
15:15	K-9 LiDAR技術を活用した広葉樹林のバイオマスエネルギー賦存量推計:武村大介(芝浦工業大学)ら	F-15 日本各地で一斉開花中のタケ類ハチクの遺伝構造:久本洋子(東京大学)ら	D-34 日本におけるスギ・ヒノキの「フェアブライズ」:守口海(信州大学)ら	討論・調整		討論・調整	
15:30	討論・調整	討論・調整	討論・調整	M-14 主要造林樹種から分離された暗色枝枯病菌の再評価:服部友香子(森林総合研究所)ら	日林誌の使い方	A-37 地域原木流通における原木市売市場の取引方法:高梨一竹(東京大学)ら	大学ツアー
15:45	K-10 2台のカメラを用いた遠く撮影による三次元動作解析手法の開発:小島尚人(東京農工大学)ら	F-16 日本および極東ロシアにおけるカラマツ属の遺伝的変異:渡辺洋一(千葉大学)ら	D-35 スマート林業を用いた大学発スタートアップの山村課題への挑戦:加藤正人(信州大学)ら	M-15 スギ苗木病害の再評価:升屋勇人(国研)森林研究・整備機構・森林総合研究所)ら		A-38 節産業における広葉樹薪の流通構造と生産状況-熊本県天草市市深町を対象に:清水浩貴(鹿児島大学)ら	
16:00	K-11 林内3次元物体検出のためのゲームエンジンを活用した教師データ自動生成:中込広幸(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)	F-17 スギの雄性不稔(MS2)候補遺伝子の同定:上野真義(森林総合研究所)ら	D-36 西川林業地に適した地上レーザー測量システム活用方法の確立に向けた比較検証:藤原寛晃(株式会社大林組)ら	M-16 スギ林における森林環境と樹木病害発生状況との関係:東北地方での一事例:山下聡(森林総合研究所)ら		A-39 日本における広葉樹材に関する輸入需要モデルの推計:オークを中心に:榎悠宇至(森林総合研究所)ら	
16:15	K-12 グラップルローダによる丸太積載作業自動化手法の開発:伊藤崇之(森林総合研究所)ら	F-18 遺伝子発現から探るスギの耐寒性の種内変異:能勢美峰(国研)森林総合研究所林木育種センター)ら	D-37 森林管理にクラウドGIS「森の案内人フォース」の活用:原佳輝(精密林業計測株式会社)ら	討論・調整		A-40 旧栗たばこ産地における1960年代の林野利用の実態と長山家のライフコース:角谷黎(東京農工大学大学院)ら	
16:30	K-13 自動走行フォワードのLiDAR SLAM点群マップから単木を抽出する手法の開発:瀧川瑞己(東京農工大学)ら	F-19 スギ不定胚形成細胞における不定胚成熟能と関連した発現遺伝子の探索:鶴田燃海(森林総合研究所)ら	D-38 地方税法第380条第3項例示地図等の調製手法による林地台帳地図修正の検討:和田陽一(朝日航洋株式会社)	M-17 ヒサカキ製袋掛病(新術)の発生生態と寄主範囲:市原優(国研)森林機構 森林総合研究所関西支所)ら		討論・調整	
16:45	討論・調整	F-20 スギにおける乾燥ストレス応答性遺伝子発現と発現マーカー遺伝子:永野聡一郎(森林研究・整備機構)ら	D-39 リモートセンシング技術を活用した森林境界明確化-木曾町事例-:丸山拓見(精密林業計測(株))ら	M-18 クマ割ぎ被害木における菌類の検出位置とそれらの病原性、腐朽力との関連:鳥居正人(森林総合研究所)ら		A-41 鹿児島・屋久島の海上輸送施設遺構の林業史的意義:奥山洋一郎(鹿児島大学)ら	
17:00		討論・調整	討論・調整	M-19 ムネアカオオアリから分離される酵母は、「樹液酵母」なのか?:藤原力也(理化学研究所バイオリソース研究センター)ら	閉会式	A-42 秋田県における近代の国有林経営と地域社会:芳賀和樹(法政大学)	
17:15				討論・調整		A-43 大正期の朝鮮総督府営林廠における事業の改革:竹本太郎(東京農工大学)	
17:30						A-44 アメリカ林学形成過程における複数のルーツの検証:平野悠一郎(森林総合研究所)	
17:45						討論・調整	